

横田英史の書籍紹介コーナー



バグは本当に虫だった ～なぜか勇気が湧いてくるパ ソコン・ネット「100年の 夢」ヒストリー91話～

水谷哲也・著／ベンコム 1800円(税別)

元 SE で現在は ITコンサルタントの筆者が綴るパソコンやインターネットに関するウンチク本。1837年の「世界最初のプログラマは女性だった」から始まり、2016年の「バグ退散に効果がある寺社はどこ」や20xx年の「情報化社会の未来予想」まで、91件の話題を取り上げる。ちなみに世界最初のプログラマの女性はオーギュスタ・エイダ・キング。詩人バイロンの娘でプログラミング言語 Ada の由来になっている。91話の中には、よく知られた話もあるが、へ～っと思わせるエピソードも多い。面白く読み通せる。

例えば第1章は、チューリングや座席予約システム「マルス」などコンピュータ黎明期からメインフレームの時代を扱う。タイトルの「バグは本当に虫だった」のエピソードもここで登場する。第2章がカバーするのはインターネットとパソコンの黎明期。世界初のマイクロプロセッサ4004、マイクロソフトやアップルの創業、日本語ワープロなどが続々登場する。第3章は、PC-9801や一太郎、Lotus1-2-3、Macintosh、JUNET、INSネット64、TK-80、マイコン雑誌「I/O」「アスキー」など、評者の世代から見るぐっと身近なエピソードになる。第3章以降も懐かしい話が満載だ。組み込み業界やIT業界の方々にお薦めの1冊である。

ねえ君、不思議だと思いませんか？

池内了・著／而立書房 1900円(税別)

宇宙物理学者の筆者が、科学者の社会性や倫理観の欠如、科学行政の問題点(科学者と研究費の問題)、宇宙の軍事化、環境問題、リニア新幹線問題、原発問題、科学界における日本の地位低下などを取り上げた書。科学者が専門分野に閉じこもって、社会的事象に興味を示さなくなった状況に警鐘を鳴らす。多くの話題を取り上げているが、いずれも歯に衣着せぬ物言いで現状を厳しく批判する。

富士ゼロックスと三洋化成工業の広報誌、中日新聞に寄稿したエッセイをまとめた書で、批判は鋭いが論旨は明快でわかりやすい。目の前の仕事に集中しがちで、周りが見えなく傾向のある“理系”人間が立ち止まって自らを振り返るには丁度いい。科学者への言及が中心だが、技術者への言及もある。例えば、科学者にとって最重要な資質は「問題を嗅ぎつける能力」、技術者が成功するための条件は「合理的かどうかを嗅ぎつける能力」と述べる。技術者の方にも役立ちそうだ。

一つの話題に割くページは数ページで細切れの読み方ができるので、読書に集中的に長い時間をかけられない場合などに向く。ちなみにタイトルは、寺田寅彦が学生たちに投げかけていた言葉だという。

世界を変える「デザイン」の 誕生 ～シリコンバレーと工業デザ インの歴史～

バリー・M・カツツ・著、高増春代・訳／CCCメディアハウス 2600円(税別)

米国のデザインコンサルティング会社 IDEO 所属のデザイナーが、デザインの視点でシリコンバレーの強さの源泉に迫った書。初めて知る話も多く面白く読める。“デザイン思考”がもてはやされるなか、一読に値する書である。

産学の連携、情報機器のデザインの変遷、大学におけるデザイン教育の変化、デザイン会社の盛衰、デザイナーのキャリア形成など、本書のカバー範囲は多岐にわたる。シリコンバレーには、デザインに関するエコシステムが多層構造をもって存在することが本書を読むとよく分かる。もっともかなり学術的な内容を含むので、Apple 製品をはじめとするデザインの華々しい面を期待して本書を読むと落胆するかもしれない。

筆者が、メーカーのなかで高い評価を与えているのが米国の米HP。評者がHPにもつイメージと異なり意外な感じだ。ポケット関数電卓機「HP-35」に始まり、パソコンのデザインなど数多く取り上げる。このあたりの視点は興味深い。Apple I、Macintosh、iPhone、Kindle など有名な情報機器のほか、医療機器のデザインにページを割いているのも本書の特徴である。

横田 英史 (yokota@nikkeibp.co.jp)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現ITPro)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組み込み制御、知的財産権、環境問題など。
*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する企業の見解とは関係ありません。